

## 歌の暗唱の授業：まずは楽しく丸覚えだ！

新見 明

2016.10.1

### 1. 1時間目：3年"Hole"の暗唱

#### 1. 1 6番まで一気に暗唱だ！

昨日、シルバーセンターの塾の授業はとても感動するものがありました。日頃、塾の授業はあまり実践報告したことがないのですが、それは自分流に工夫して授業展開するのではなく、2～4人ほどのクラスで勉強のお手伝いのような授業になっているからです。

ところが昨日、前期期末テストが終わったところなので、1時間目中学3年生の授業で"There's a Hole"の歌の暗唱をやりました。この歌は9月の1ヶ月ぐらい授業の初めに歌い続け、口頭で意味や少しだけ暗唱もしていたのですが、まとめて1時間使ったのは初めてでした。

生徒は3人いるのですが、一人は不登校気味の男子（鈴木良太）で今日は居ません。あと二人は成績中程度の女子でソフトボールをやる活発な女の子（吉田里花）です。もう一人はサッカーをクラブチームでまだしているおとなしい男子（藤田雅和）です。成績はこれも中の下ぐらいです。

吉田里花は歌が好きでドレミの歌もエーデルワイズもすぐ覚え歌えてしまいました。もう一人の藤田雅和はこの8月だけ入部する予定がその後もこれまで行っていた塾をやめこちらに通うようになりました。かれは話す声が小さく、歌に余り積極的ではありません。果たしてこれで2人とも"Hole"を暗唱できるか心配でした。

まず1番から暗唱を始めました。吉田里花はすぐ合格しました。ところが藤田雅和は声が小さく時々詰まります。彼を不合格にして、次は吉田里花が2番に挑戦し合格しました。そして藤田雅和が再度1番に挑戦するのですが、前より少し進歩したので間違いはあるけれど合格にしました。

そんなふうには吉田里花は6番まですらすら合格していきましたが、藤田雅和は声は小さくリズム読みの時のペンもしっかりたたけない。時々 bottom を hole と間違えたりして不合格を繰り返しながら進んでいきました。

そして藤田雅和が6番に挑戦しているころ、吉田里花に1番から6番まで通して歌うのに挑戦させました。ところが6番まで通してすらすら歌うことができたのには驚きました。もちろん途中で「次は穴」、「丸太」、「こぶ」・・・など日本語のヒントを与えましたが、すらすら暗唱していきました。以前、私は黒板に「穴」や「丸太」や「こぶ」・・・などのカットを貼り付けて順番が分かるようにしたことがありましたが、今度は口でヒントを与えるだけでできてしまいました。この日本語の「穴」「丸太」・・・の日本語のヒントは歌の情景を思い描くのにはいい役割を果たしてくれました。

藤田雅和はやっと6番に到達しました。「底」や「穴」や「丸太」・・・などの名詞の間違いはなくなりましたが、まだ in,on の前置詞の間違いがありました。しかし6番まで到達するころにはその前置詞にも慣れてきたようです。

## 1. 2 熟語の丸暗記でなく、there の原義に戻って考える

吉田里花が6番通して、藤田雅和が1番ずつ6番に達したとき、まだ時間に余裕があったので、寺島隆吉編『Singing Out』の穴埋め語順訳プリントをしました。ここではまず there の語順訳が点線のアンダーラインになっています。空欄にするか、「そこ」を入れさせるか迷いましたが、原義にもどって「そこ」と入れさせました。

そこで「日本語らしい訳」になったとき吉田里花は「そこ」を省略して「海の底に穴がある」と訳していきます。ところが藤田雅和は There's a hole の繰り返し部分で「そこに穴がある」と訳しています。ここを問題にして話し合いました。

新見:「どうして”そこ”が入っていないの？」と吉田里花に質問します。

想花:「'そこ'を入れると変だから」

新見:「どうして'そこ'をいれると変なんですか」

想花:・・・

新見:'そこ'とはどこを指しているの

想花:海の底

新見:だから「そこに海の底に穴がある」となって2重になって変なんですね。じゃあ雅也君の「その海に穴がある」というのはどうですか。

雅也:・・・

新見: There is a big hole there. というように「そこ」をあえて言う場合には there を後ろに持ってきます。だから最初の there にはもう意味が無くなっているのですね。

ここでは There is ~. を「～がある」と丸暗記するのではなく、原義に戻って訳すことの大切さをまなびました。there を「そこ」と訳せば is が「ある、いる」であることが明確になります。そして文頭の there がまず何があるかを先に述べ、場所は文の後ろで説明されています。これも言いたいことを先に述べる英語の語順の特徴を学ぶいい教材になっています。

## 1. 3 発展問題: 和文英訳から自由英作文へ!

次に『Singing Out』のプリントに挑戦させました。そこでは「穴埋め語順訳」の次に「日本語らしい訳」があります。そしてページが一番下が<発展問題>で和文英訳が載っています。<発展問題>では後置修飾が一つから次のページでは2つになってどんどん増えていきます。

1 ページ目 [[私の部屋の]机の上に]本が1冊(ある)。

2 ページ目 [[[窓のそばの]ピアノの上の]箱の中に]りんごが1つ(ある)。

これも今まで There's a Hole の応用は身の回りのものを使って自由英作文の実践しか知りませんでした。一番の基礎として和文英訳が行われていることに気づきませんでした。大きな発見でした。<発展問題>は2ページほど和文英訳をすると、次の2ページは「自分の教室」にあるものと、「自分の部屋」にあるものの自由英作文になっています。そして5ページ目が再度和文英訳で4つも後置修飾がついた文です。

5 ページ目 [[[[学校の近くの]公演の中の]噴水のそばの]高い木の下に]3匹の犬が(いる)。

そして最後が「どんどん長くなっていく英文」を自由英作文させる問題です。このように、すぐ自由英作文をするのではなく、和文英訳で前置詞の後置修飾を訓練してから自由英作文に至る指導が重要だとわかりました。自由に **there is** への文を作れと言ってもなかなか作れない生徒が多いのが現実です。ですから先行実践のプリントを使って追試することの大切さを、またまた痛感させられました。

**Singing Out** は寺島先生のところにも在庫が無いようなので、増刷が望まれるところです。

## 2 2時間目：2年の **Edelweiss** の暗唱

### 2. 1 暗唱を半分ずつにして、情意障壁を低くする。

次の2時間目は中学2年の **edelweiss** の歌の授業です。これも授業前から”**Sound of Music**”のDVD映像を流しておいて、授業の最初にそのDVD映像に合わせてドレミの歌や **edelweiss** を歌っていました。ドレミの暗唱が終わった生徒もいれば、**edelweiss** の訳が完了した生徒もいます。進度はバラバラなのですが、今日は **edelweisse** の歌の暗唱に全員挑戦しました。

2年生は4人いますが、一人(上田優作)は成績は下位で、読むのはけっこう読むのですが、英文を書かせると4・5行を書くのに1時間中かかってしまうぐらい遅いです。しかし今日は欠席です。もう一人は特殊学級の元気な女の子(村木由里)です。もう一人の女子(黒川和美)は声が小さく、おとなしいがまじめに取り組む生徒で、成績は下位です。もう一人の男子(山田浩太)はまじめに取り組む、理解力があり成績は中の下ぐらいです。この3人で果たして暗唱の授業ができるかどうか心配でしたが、テスト開けでもあり、やってみることにしました。

特殊学級の村木由里は勉強はアルファベットやローマ字をやっている程度ですが、声が大きく、快活でいつも授業を盛り上げてくれます。しかし暗唱はほとんどできません。だから最初は全員歌詞を見て歌うテストにしました。そうしたらなんとか村木由里も歌うことができました。黒川和美は聞こえるか聞こえないぐらいの小さな声で歌うしかできませんが、指示されたことには熱心に取り組めます。

そこで歌詞を半分ずつに分け、4行ずつ暗唱することにしました。そうしたら、みな挑戦できるようになりました。黒川和美も一度も不合格なしで暗唱できました。山田浩太は小さいが、理解力があるので一度も不合格なしで合格しました。あと不合格は村木由里だけですが、彼女が合格するまで、時間があつたので、黒川と山田は通して歌うテストをすることができました。村木由里はまだ完全には歌えないが、ある程度歌えた段階で合格にしました。この歌テストに慣れてくれば、彼女もじきにしっかり暗唱できるようになると思えます。

### 2. 2 **edelweiss** の構造よみ：いろんな意見が出て、討論できればいいのだが・・・

歌の暗唱が終わってまだ時間があるので、”**Singing Out**”の穴埋め語順訳プリントをやらせました。ところが黒川と山田は二人とも穴埋め語順訳も日本語らしい訳も完成していません。最後に残った1ページは内容理解のページでした。1番が「主題」を問う問題。2番が「繰り返し、対比」を問う問題。3番が「起承転結」の「転の位置」を問う問題。「転」

は Blossom of snow may you・・・のところであることは二人ともすぐ分かった。そこで二人に「起承転結」を考えさせました。二人は次のように違った分け方をしていました。

山田案		黒川案
起	Edelweisse, edelweiss, Every morning you greet me.	起
承	Small and white, clean and bright You look happy to meet me.	承
転	Blossom of snow may you bloom and grow Bloom and grow forever	転
結	Edelweiss, edelweis Bless my home land forever.	結

二人の起承転結が出ました。意見が違っているところは「承」の位置と「結」の位置が違っていませんか。「起」は語の始まりですね。「承」は話のつづき、「転」は話の転換、「結」は話の結びですね。「起は Edelweisse だけか、You look まで続くか。どっちだろう?」「結は edelweisse の行と Belss my homeland まで続くかとっちだろう?」それらの発問をしましたが、あまり反応はありませんでした。結論は言わず「こうやって詩の構造を読み取ることは、詩を理解する上でとても大切なことです」とまとめました。しかし黒板で二人の考えを明示するともっと考えやすくなったのではないかと。

そこで黒板に三好達治の詩を書いてみた。

#### 雪

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪降り積む、  
次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降り積む

この「起承転結」になるかも考えさせました(注1)。塾でこんな風に起承転結の勉強が出来るとは思わなかったので私自身驚いています。これも"Singing Out"の威力であることを改めて感じさせられた一コマでした。

一方、村木由里は穴埋め語順訳を一度もやっていなかったのが最初から訳をすることになりました。ヒントが少しだけなので、there, sea など辞書を引ながら穴埋めをしていました。ところが英和辞書を引いたことがなかったので a,b,c の並び順から覚えていく勉強になりました。最後は辞書が引けるようになって大きな進歩であることを褒めておきました。

(注1) ここでは短い詩を取り上げようとして思いついたのが三好達治の「雪」でした。

この「雪」という詩は「起承」だけあって、「転結」がない詩で構造よみの基本を教えるには不適切でした。大西忠治は題の「雪」が起で、「太郎を眠らせ」が「承」で「太郎の屋根に雪降り積む」が「転」で「次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降り積む」を「結」とする意見も紹介していましたが、1行目(太郎)が「起」、2行目(次郎)が「承」で、「転」「結」が省略され、その省略部分を考えて「主題読みがはっきりしてくる」と書かれています。(『大西忠治教育技術著作集14』pp.251-252)

この「雪」より、同著作 P269 に載っている昔の流行歌の方がよさそうでした。

起	京の四条の糸屋の娘	(おこり)
承	姉も妹もきりょうよし	(つづき)
転	諸国の大名は弓矢で殺す	(かわる)
結	糸屋の娘は目で殺す	(むすぶ)

### 3 まとめ

このように1時間全部使って歌に挑戦する授業は、授業の初めに少しずつ歌っている時よりも大きな盛り上がりを見せてくれます。一生懸命暗唱しようとして、それぞれが刺激し合っていて学ぶことができます。それに歌が苦手になかなか声を出さない2年の黒川和美や3年の藤田雅和も少しずつ心と体をほぐし、歌うようになってくれました。そんな効果を歌の暗唱の時間に感じました。

そんな計画性のない、ちぐはぐな授業風景ですが、「構造よみ」、「there の原義に戻って英文を理解する」、「辞書引き練習」などは記号研時代に学んだことが大いに役立ちました。そして寺島先生がいつも最後に付けられる内容理解の発展問題に再度触発される授業でした。『Singing Out』のプリントをそのまま追試することの重要性を改めて認識した次第です。

付け足しですが、この歌の暗唱の授業をしようと思い立ったのは、最近私が地区の老人会の席でロシア民謡を歌うことになったからです。去年の老人会で近所の老婦人がロシア語を話すことがわかり、驚いてその後も簡単なロシア語で会話することがありました。聞けば彼女はサハリンで生まれ、幼少期をサハリンで過ごしたということです。そのときロシア兵からロシア語の歌を教えられたそうです。そんなことから来年の敬老会では一緒にロシア民謡を歌いましょうと私が提案しました。「カチューシャ」を歌うことにしたのですが、私は1番の2行目がどうしても思い出せません。私の持っているロシア民謡の本にもカチューシャは載っていませんでした。仕方なくネットで探して、辞書をくりくり意味を確認していました。そんなことで、私には50年ぶりのロシア語の勉強でしたが、外国語の初歩の勉強として歌の暗唱がすばらしい力を発揮することを身をもって体験しました。私のこの忘れ去られたロシア語勉強事件があったために、ぜひ塾でも歌の暗唱の授業をやってみようという気持ちになりました。余談ですがそんなことも付け加えておきます。